## ６．宿根かすみそう

・殺菌剤

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9 | フルピカフロアブル | 散布 | 発病初期 | 5 回以内 | |

・殺菌剤（参考農薬）

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | トリフミン水和剤 | 散布 | 発病初期 | 5 回以内 | 花き類･観葉植物(ばら、きくを除く) |
| 39 | ピリカット乳剤 | 散布 | 発病初期 | 6 回以内 | |

・殺虫剤（参考農薬）

| IRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | アディオンフロアブル | 散布 | － | 6 回以内 | |
| 6 | コロマイト乳剤 | 散布 | － | 2 回以内 | |
| 3 | トレボン乳剤 | 散布 | － | 6 回以内 | |
| 21 | ピラニカＥＷ | 散布 | 発生初期 | 1 回 | 花き類･観葉植物(ｶｰﾈｰｼｮﾝ、きくを除く) |
| 4 | モスピラン顆粒水溶剤 | 散布 | 発生初期 | 5 回以内 | 花き類･観葉植物(ｽﾄｯｸ、りんどうを除く) |
| 18 | ロムダンフロアブル | 散布 | 発生初期 | 5 回以内 | 花き類･観葉植物(きくを除く) |

注1)　使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
注2)　薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
注3)　農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
注4)　蚕毒・魚毒については、「28．花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（Ｆ：菌類病、Ｂ：細菌病、Ｖ：ウイルス病、Ｏ：その他の病原体）

| 病害虫名 | 防除時期 | 防　除　方　法 | 注　意　事　項 |
|---|---|---|---|
| 疫病（Ｆ） | 生育期間 | 1. ほ場の排水性向上に努める。<br>2. 発病株は抜き取り、ほ場外に埋却する。 | |
| 立枯病（Ｆ） | 生育期間 | 1. 発病ほ場では、土壌消毒を徹底する。<br>2. 発病を認めた場合は、直ちに罹病株を抜き取り、ほ場外に埋却する。 | 1. 本病は土壌伝染性の難防除病害である。<br>2. 本病の病斑部には、淡桃色の菌叢を生じるので、類似する他の立枯性病害と区別が可能である。 |
| 灰色かび病（Ｆ） | 生育期間 | 1. 発病葉は伝染源になるので、見つけ次第除去する。<br>2. 過繁茂にならないよう茎葉を整理し、風通しを良くする。 | 1. 枯死株をほ場内に放置しない。 |
| うどんこ病（Ｆ） | 生育期間 | 1. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。<br>2. フルピカフロアブル 2,000 倍液を散布する。<br>［参考農薬］<br>1. ピリカット乳剤 1,000～2,000 倍液、又はトリフミン水和剤 3,000 倍液を散布する。 | |
| 茎枯病（Ｆ） | 生育期間 | 1. 連作しない。<br>2. 前作の発病株残渣は、ほ場外に埋却する。 | 1. 多発ほ場では、３～４年の輪作を行う。 |
| ハダニ類 | 生育期間 | ［参考農薬］<br>1. コロマイト乳剤 1,000～1,500 倍液、又はピラニカＥW2,000 倍液を散布する。 | 1. 発生初期に防除する。<br>2. 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一剤を連用しない。 |

| 病害虫名 | 防除時期 | 防　除　方　法 | 注　意　事　項 |
|---|---|---|---|
| ハ ダ ニ 類 | 生 育 期 間 | | 3. コロマイトは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 |
| アブラムシ類 | 生 育 期 間 | ［参考農薬］<br>1. アディオンフロアブル 1,500 倍液、又はモスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液を散布する。 | 1. アディオンは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 |
| ヨ ト ウ ム シ | 生 育 期 間 | ［参考農薬］<br>1. アディオンフロアブル 1,500 倍液、又はトレボン乳剤 2,000 倍液を散布する。 | 1. アディオン、トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 |
| シロイチ<br>モジヨトウ | 生 育 期 間 | ［参考農薬］<br>1. トレボン乳剤、又はロムダンフロアブルの 1,000 倍液を散布する。 | 1. トレボンは蚕毒及び魚毒に、ロムダンは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 |

## 7．しゃくやく

・殺菌剤

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 19 | ポリオキシンＡＬ水溶剤 | 散布 | 発病初期 | 8 回以内 | 花き類･観葉植物 |

・殺菌剤（参考農薬）

| FRAC コード | 薬剤名 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10+1 | ゲッター水和剤 | 散布 | － | 5 回以内 | 花き類･観葉植物（ひまわり、ｾﾞﾗﾆｳﾑを除く） |

注1）　使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
注2）　薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
注3）　農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
注4）　蚕毒・魚毒については、「28．花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（Ｆ：菌類病、Ｂ：細菌病、Ｖ：ウイルス病、Ｏ：その他の病原体）

| 病害虫名 | 防除時期 | 防　除　方　法 | 注　意　事　項 |
|---|---|---|---|
| 灰色かび病<br>（Ｆ） | 生 育 期 間 | 1. 過湿にならないよう密植を避け、施設では換気を図る。<br>2. 株元の枯死葉は伝染源になるので早めに除去する。<br>3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。<br>4. ポリオキシンＡＬ水溶剤 2,500 倍液を散布する。<br>［参考農薬］<br>1. ゲッター水和剤 1,000 倍液を散布する。 | 1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統の薬剤を過度に連用しない。 |
| 菌　核　病<br>白　絹　病<br>（Ｆ） | 生 育 期 間 | 1. 密植栽培しない。<br>2. 発病株を認めた場合は直ちに抜き取り、ほ場外に埋却する。 | 1. 未熟有機物を多用すると多発することがある。 |
| 根頭<br>がんしゅ病<br>（Ｂ） | 植　付　前 | 1. 無病苗を使用する。 | |
| コ ウ モ リ ガ | 生 育 期 間 | 1. 被害部を見つけ次第取り除き、食入幼虫を捕殺する。 | |